

知事
メッセージ

持続的に発展可能な社会を目指して

福島県知事 佐藤 雄平



原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会の実現は、県民全ての願いです。

このため、県では、2040年までに県内で必要なエネルギーを全て再生可能エネルギーでまかなえるようにするという大きな目標を掲げました。

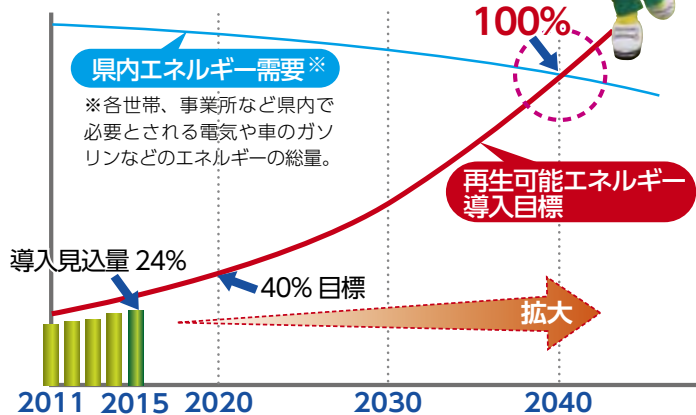
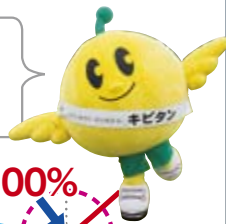
現在、浮体式洋上ウインドファームの実証研究や福島空港メガソーラーの建設を始め、県内各地でさまざまな取り組みが進んでいます。

今後も、「ふくしまから はじめよう。」を合言葉に、「再生可能エネルギー先駆けの地」を目指して、全力で取り組んでまいります。

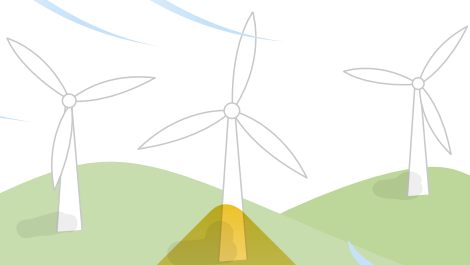
県内の再生可能エネルギー導入目標

(福島県再生可能エネルギー推進ビジョンより)

将来、県内で使っているエネルギーと同じ量を、再生可能エネルギーで生み出すことを目指しているんだね。



福島県 再生可能エネルギー



風が風車を回す力で発電する仕組み

風力発電

70,025 世帯分

・郡山布引高原風力発電所 (郡山市) など

主に火山の熱で発電する仕組み

地熱発電

94,900 世帯分

・柳津西山地熱発電所 (柳津町)

地域の水を活用して発電する仕組み

小水力発電

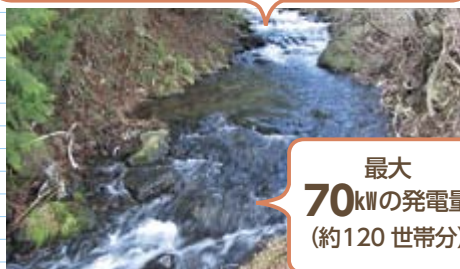
(1メガワット以下の水力発電)

24,528 世帯分

・大平沼小水力発電所 (喜多方市) など



百日川の上流に取水口を取り付け、傾斜を利用して水を引き、電気を作ります



最大
70kWの発電量
(約120世帯分)

小水力発電のポイント

- ・地域にある水の流れを利用して発電できる
- ・天候や時間に左右されず昼夜を問わない発電が可能!
- ・CO₂を排出しないクリーンエネルギー

現在、県の支援を受けながら、村内を流れる百日川の水を活用した小水力発電の導入に取り組んでいるところです。あわせて再生可能エネルギーの体験学習ができる施設を作り、子どもたちの環境学習に役立てる予定です。

未来へ
発進!

小水力

地域ではじめる
再生可能エネルギー

大玉村は、「再生可能エネルギー利用推進の村」を宣言し、安心・安全な社会づくりに努めています。



仕組みを詳しく
知ってみよう!

福島洋上風力交流センター

「いわき・ら・ら・ミュウ」内で、模型やパネルを使い、研究の内容や風力発電の仕組みなどを紹介しています。

福島洋上風力コンソーシアム

未来のふくしま 再生可能エネルギーの進んだ社会

再生可能エネルギー推進プロジェクト

広大で自然豊かな本県では、再生可能エネルギー（太陽光、風力、地熱、水力、バイオマスなど）の導入を推進しています。

県が目指す将来像と、今後、発展が期待できる発電についてその取り組みをお知らせします。

県内の再生可能エネルギー 発電状況を紹介します。

(1メガワットを超える水力発電を除く)



太陽光については
6ページで説明します。

光エネルギーを電力に変える仕組み

太陽光発電

28,762 世帯分

・棚倉堂ノ沢太陽光発電所
(棚倉町) など



栽培作物や廃棄物を原料にして
発電する仕組み

バイオマス発電

110,835 世帯分

・白河ウッドパワー大信発電所
(白河市) など

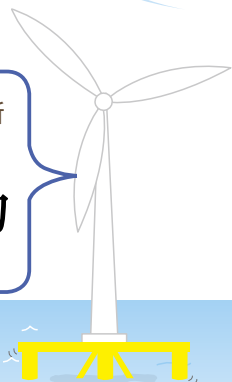
各発電がおおよそ
何世帯分に相当する量を
発電しているかを
示しています。

以下の算出方法をとっています。

- ・2012年度末現在の実績を
ベースとして計算
- ・標準世帯の年間消費電力量：
3,600kWhとして計算

※県内世帯数:721,837世帯(H25.10.1現在)

海に浮かぶ風力発電所 浮体式 洋上風力



未来へ
発展！
洋上
風力

洋上で風の力を利用した
実証研究がはじまりました

■福島復興浮体式洋上ウィンドファーム

広野・楡葉町の沖合い約20kmで、国が先頭に立ち、丸紅㈱、東京大学をはじめとする1大学10社のグループ「福島洋上風力コンソーシアム」により、風の力で電気を作る風力発電の研究を開始!!

目録
4 変電設備
「ふくしま絆」

浮体式

目録
2 発電規模

風力発電設備「ふくしま未来」

目録
1 大きさ

出力は2メガワット
さらに、
今後7メガワットの
風力発電設備を
2基設置
します

世界初!

最大で
16メガワット

ブレードの長さ
約40m

浮体底面から
高さ約80m

世界初!
浮いている
変電所

目録
3 洋上の安定した風により
設備稼働率UP!!

(提供：福島洋上風力コンソーシアム)



